

私は先週木曜日に、大腸検査と胃カメラ検査を1日でやって来ました。口からカメラ入れるんですけど、こんな(\*四角の)大きなカメラじゃなくて、小さな(\*筒状の)カメラ。そして、お尻の穴からカメラを入れて、身体の奥の方まで撮影しながら検査して下さいなんです。なぜ1日でやったかという、ものすごく腕のいいドクターがいてるんです。大腸検査を今まで2回やりました。下手な人にやられると、大腸は2回コーナーを回るのですが、その時痛い。もう痛いのはコリゴリなので、上手な先生の時に行こうと。10人待ち。ところが、次から次へと「ハイ、どうぞ。」「ハイ、どうぞ。」みたいな感じで。本当に上手でした。少しも痛くない。自分の身体の奥底にある部分を、寝転んで見れるという。しばらく、タラコ食べられません。今日の昼の弁当に明太子入ってて「ウっ!」自分の大腸を連想して、変な感じがしたんですけど。

で、ポリープが見つかったんです。「高原さん。立派なのがあるわー。」ほめんとして、そんなの。ポリープが見つかった時、「なんでそんなん、勝手にはやしてんの!」と叱りません。「この際ですから、きれいに取っておきましょうね。腸の中には神経がないので、切り取る時、全然痛くないんですよ。ほうら!」子供かよ、俺は。でも、「いい医者はいいなあ」と思いました。

私の身体の中の色々な問題点を指摘するのですが、それは私を貶めるための指摘ではなく、健康にするための指摘です。「ここを取り除いたら、もっと元気に活躍できますよ」という励ましのメッセージですね。

科学の器械を使う事によって、人間ですら、身体の奥の方にある部分を見つけ出す事が出来ます。ましてや、この世界をお造りになった真(まこと)の神様がおられるなら、私たちの心の奥底に秘めているものを、全部お見通しだと思います。聖書は私たちの心にある色々な問題点を指摘しますが、その指摘は私たちを貶めるためではありません。私たちを心身共に健康にして、永遠のいのちを与えるために、そのように語って下さるのです。

日本には『名は体を表す』という事がありますね。でも、必ずしもそうではない。「下駄箱」最近、下駄入ってます?「筆箱」今どき、筆が入っている筆箱の人、いないんじゃない? シャープペンとかボールペンでしょ。人間の場合も同じで、必ずしも名は本質を表していない。ガリガリの太(ふとし)君・不正が平気な正(ただし)君・疑り深い信頼(のぶより)君・暗い明子(あきこ)さん。

1人の女性が、初めて教会に来られました。「お名前、何と仰るんですか?」「ケイコです。」「どんな字ですか?」「“恵まれな子”と書いて恵子と読みます。」普通、恵みの子と説明しません?「“恵まれな子”と書いて恵子と読みます。」つまり、この名前は私の人生を表してない。随分、ご苦労なさった方。だから名前はついているけど、その名前は、その人の人生や人柄を必ずしも表しているものではない。

しかし、聖書の神はそうではないのです。聖書によると、神は霊的存在なので、目で見える事は出来ません。だから、神を知るには神の言葉で知るしかない。そして、神様がどのようなお方かという神の本質を、神は言葉を通して・自分の名前を通して分からせようとして下さっているのです。

神のひとり子が人となって来て下さった、そのお方をイエス・キリストと言います。イエスは名前。キリストは称号。イエスはヘブライ語で「イエシュア」。訳すと「主は救い」。聖書の神様は「救い」です。

私たちの解放者。罪からの・悪習慣からの・永遠の地獄からの・自分自身からの解放者。

この解放者イエス・キリストを是非知って頂きたいと思うのです。

毎週日曜日の3時半から、ここで、初めての方のための聖書メッセージをしています。その1時間くらい前に、インタビューを受けるんですよ。「今日はどんな話ですか?」「どこの箇所から話しますか?」「どんなポイントですか?」「テーマは何ですか?」「祈って欲しい事は何ですか?」

私が答えた情報は、この集会の30分ほど前に、有志のクリスチャンが集まって祈り会をするのです。皆さん、人のために祈った事がありますか? 自分の家族でも親族でもない人のために、何十分かけて祈った事がありますか? この集会では、毎週日曜日、有志のクリスチャンが集まってそうしています。

何のためにそれをするのか? あなたが救われるためです。私たちは信者を集めてどうのこうの、そんな事は考えてません。この集会を何のために開いているかという、あなたが救われるためです。

私は3日後の今週水曜日に、ニュージーランドに行きます。ニュージーランドにもたくさんの日本人がいるので、聖書のメッセージをするために行くんです。ニュージーランドは今真夏。南半球なので、日本が冬の時、南半球は夏。それで準備が、冬服ばかりのところに夏服というのは面倒くさいので、長袖切ったのかなど。海外旅行の時には準備します。結婚式前の方は結婚式の準備をします。準備なしに当日を迎える事はあり得ない。入学前・留学前にも準備があります。

しかし、人間がなすべき準備の中で1番大事な準備は、神に会う準備です。永遠に対する準備・死に対する準備。罪の赦しをしっかりとった上で、審判者である神様の前に立つ準備。私たちの代わりに、永遠の審判者である神様の前に、完全な平安をもって立つ事ができるように、救いを準備して下さった方を私は紹介したい。

私たちが死んで、滅んで、永遠の地獄に行くのではなく、神様の前に罪赦されて、永遠の天国に行くために、神が私たちに代わってして下さった事について今日考えたいのです。それをして下さった方はイエス・キリストです。キリストがして下さった3つの事を、今日一緒に考えたいと思います。

ローマ人への手紙8章を開けて下さい。〈\*聖書は新改訳聖書第3版〉

**ローマ8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。**

ここに3つの事が書いてあります。①キリストは私たちのために死んで下さった。②キリストはよみがえって下さった。③キリストは私たちのために、神の右の座で執り成して下さっている。

### キリストがして下さった事の1つ目

**キリストはあなたの罪を負って、十字架の上で死んで下さった。**

私は毎月1回、大阪城近くのホテルニューオータニで聖書講演会をしています。

大学生もいれば大学教授も・高校生もいれば高校の先生も・警察官もいれば出所して来た方もいる。

色々な立場の方がいるんだなああとワクワクします。

もう10年近く毎月ずっと続けていると、常連さん・定期的に参加する方がたくさんおられるんですね。段々、お互いに知り合いになって行くのですが、ある時、いつも参加する1人の男性が「1分だけ、皆さんに報告したい事がある」という事で立たれました。彼は鼻からチューブを着けて、酸素ボンベを携帯しています。皆楽しくワクワクしながら、いい時間を持っているのですが、その方がこう言ったんですね。

「私は今日、ホスピスから抜けてここにやって来ました。末期癌です。私の人生を振り返ると、特に後半、株式の売買で家族を不幸のどん底に落としました。振り返ったら、良かった事よりも恥ずかしい事の方がいっぱいありますが、毎月 1 回聖書の言葉を聞いて、自分がどこから出て来たのか、誰に愛されているのか、そして、神の犠牲によって罪が償われているという事を知って喜んでいきます。皆さんとお会いできた事も喜んでいますが、来月のこの会にはいません。お先に天国に行っております。」

ここで体力がおしまい。そのまま出て行かれたんですが、その瞬間、その集会の空気が変わった。それまでは何となくざわついて、楽しげな雰囲気。だけど、「来月は皆さんとお目にかかれなんでしょう」と言った瞬間、その場所の空気がピシッと引き締まったのです。死を前提にした人の話は、人を本気にさせます。私は今から人の死ではなく、人となられた神の死・キリストの死の事を話そうとしています。とても厳かな事だと思えます。

キリストは私たちのために死んで下さった。そもそも、なぜ死はあるのでしょうか？ 私も愛する人たちを随分天国に送りました。死というのは、何回経験しても慣れない。「こんなにたくさんお葬式を経験したから、もう誰が死んでもびくともしない」と言う人はいないと思えます。私はそうです。

ところで、日本文化というのは何でも美しくする、「美しかったらいいじゃないか」という審美的文化だと思います。神社の境内は、とにかく掃き清められているでしょ。神道には経典がありません。教理がない。ただ、掃除が行き届いているという所。「それでもええやんか。」まあ、きれいになってたらいいですよ。美しいものに、すごく価値を見出す文化だと思います。

しかし、それを死に提供すると、ちょっと勘違いする。「あの人は眠るように亡くなった」「美しい死に顔だった」「少しも苦しまずに畳の上で大往生した」「いい死に方だった」「枯れるように死んで行った」「あんな風でありたいなあ」というような事を、よく耳にします。

体中チューブに繋がれて、のたうち回って死ぬよりも、絶対その方がいいです。いいですけど、「枯れるように死んで行った」というその死も、神の目から見ると不自然なんです。死というのは、神と対立しているものです。のたうち回って死のうが、全然苦しまずに死のうが、神様にとって死は憎むべきもの。聖書によると、死は神の敵です。どんな死も、神様の前には自然死ではなく、不自然な事なんです。いのちの創造主である神様には、元々死というプログラムはなかったのです。

ではなぜ、こんなにたくさん死があるのか？ どうして人間は死ぬものとなってしまったのか？ 神は人間を死ぬものとして設計なさったのではありません。聖書によると、いのちのルーツである生ける真の神様から離れて、神との関係を切るという罪のゆえに、結果として人間の命に死が入った。だから、死というのは神の目には憎むべきもので、ご自身が造った作品を蝕んで行くもの。神にとって、死は対立しているものです。

死はギリシア語で「サナトス」。「分離」という意味。聖書では、死には「第1の死」と「第2の死」があります。第1の死は、体と魂が分離する事。肉体から魂が抜けて行く事が死です。第2の死は、体から抜けた魂が、永久に神と分離する事。この、神がない世界に落ちる事を、聖書は「地獄に墮ちる」と言うのです。

聖書は、「人間には1度死ぬ事だけではなく、2度目の死が定まっている」と語るんですね。しかし、2度目の死を克服し、解決するために、神はイエス・キリストをこの世界に送って下さいました。

第2の死という罰から私たちを救うために、神はキリストを遣わして下さった。そしてキリストは、私たちのために十字架にかかって、私たちの代わりに、生きながら神から捨てられるという刑罰を受けて下さった。この事は、すごく大事なことです。

最近必要があって、太宰治（だざい おさむ/1909-1948:M42-S23）を読み返しています。太宰治の治は「じ」と読めますね。「だざいじ」つまり「墮罪児」罪に堕ちた子供。「ふん！俺はどうせ罪人（つみびと）だよ！」太宰治による福音書があって、『駈込み訴え』（かけこみうったえ）というのですが、何とも言えない作品。彼はすごく聖書を読んだ人です。

40歳の時に玉川上水で心中自殺して亡くなったのですが、その前に自殺未遂が2回、心中が2回、合計4回死のうとしました。ところが4回共、奇跡的に助かる。目に見えない力が彼を生かそう、「滅びないように、死なないように。人生、投げらんじゃない。生きよ」と言われているかのように死なないのですが、5回目に成功して死にました。

どうして、こんなに才能豊かな人物が死に急いだのか？太宰治の研究者・愛読者なら誰でも知っている事ですが、1回目の心中に理由があると言われています。1回目の心中の時、女性だけが死んで、自分は生き残った。まず彼女を沈めた。でも自分は死にきれなかった。それで、警察が入って取り調べを受けるのですが、実は、彼の父親は貴族院議員の国会議員。そして兄は、後に青森県の知事になる方。家には奉公人が30人以上いる。彼は弘前高校から東京帝国大学仏文科に入るエリート。父親が貴族院議員の東京帝大生が心中自殺しようとした。しかもその相手は、内縁の夫がいる人妻。

こんな事が大っぴらになったら、何かの名誉に傷がつく。それを懸念して、取り調べ警官が「事を荒立てない方がいいのでは。」自殺ほう助というよりも間接的殺人の疑いが濃厚だったのに、お兄さんが莫大なお金で相手の夫と示談したのもあって、なかった事にしたんです。本当だったら間接的殺人で訴えられ、裁かれているかも分からないのに、父親の政治力・兄の経済力・東大のブランド力で、裁かれなければならないにも拘わらず赦された。

皆さん、この赦しは彼に平安を与えたでしょうか？「ラッキー！助かった！こんな間違い犯したけど裁かれへんのや！」と喜んだか？違います。これをきっかけにして、自らを懲らしめて行くようになるんです。

赦しは、誰もが渴望しているものだと思います。でも、根拠のない赦しは、人に平安を与える事ができません。償いもなされていないのに、事を荒立てないために丸く収めるという「理由のない赦し」は、目覚めた人間の良心をなだめる事はできません。償いが伴っていない赦しは、人を安心させる事ができないのです。

これを話しているのは、全ての人は神の前に罪人ですが、神様は「なかった事にする」と目をつぶるような赦し方ではない、という事に気づいて頂きたいからです。

罪に定めようとするのはだれですか。死んで下さった方がいる。聖書が提示している赦しは、償いが伴う赦しです。私たちに代わって、神ご自身が罪の償いをして下さった。あのイエス・キリスト。私たちが受けなければならない刑罰を、全てキリストが背負う事によって、私たちは罪の赦しを頂く事ができるようになった。事実立脚する赦し。だから、平安と確信を持つ事ができるのです。

キリストがして下さった事の2つ目

よみがえられた方であるキリスト・イエス。「よみがえり」

キリストは十字架の上で死んだだけでなく、3日目に人類の誰も成し遂げられなかった、死そのものを滅ぼして下さった。よみがえり、これは本当に望みですね。

私には子供が3人いて、1番上がもう25歳。ついこの間まで、私が25歳だった気がする。皆さんもそう思いませんか？僕は、大学出たのはついこの間という感じ。鏡の前で「誰？このおっさん。」長男が2歳くらいまで、夜泣きがひどかった。夜泣きって、「パラパ〜ララ♪」（流しのラーメン屋のチャルメラ）じゃなくて、「ギャー!」ですよ。夜中の2時-3時にかけて絶叫。まあ、怖がりでした。今でも基本的には変わってないと思う。トイレ行く時いつも、かなり大きくなってからも、讚美歌を歌いながら行くんですよ。それは、いつも主をほめたたえているというよりも、音が鳴ってないと怖いからです。トイレ行くの。

実は私がそうなんです。怖がり。僕は大学2年の時、初めて眼鏡をかけました。既に0.1、ようそれでやってたなあと思うんですけど。目が悪かった時、何度も幽霊のようなものを見たんです。目が悪いから。眼鏡かけてから、ピタッと見なくなりました。

ある時「ビヤ〜ッ!!」、また泣いてる。でも、その時は火が付いたような泣き方で、「怖い夢、見たんか?」「うん、うん。怖い、怖い。」その晩、『ゴジラ』の映画を見たんです。ゴジラが最後海底に沈んで、プクプク泡浮かべて、それで「完」って終わる。うわっ、めっちゃ暗い。「怖い、怖い。」〈ゴジラの夢か?〉「違う。もっと怖い。」〈何の夢?〉「お父さんの夢。お父さんが死んだ夢、見た。」皆さんも子供の時、経験ありませんか？大好きなお父さんか、大好きなお母さんが死んだ夢。「うわっ!」と跳び起きて、隣で寝てる、思わず触った事、ありませんか?「生きてる…。」鼻の中に指入れて、「やめなさい!」とか言われて。「夢で良かったあ。」

自分が愛してやまない、そして全面的に信頼している人が死ぬというのは、世界を根底から地割れさせるような事ではないかと思うんですね。キリストの弟子たちにとって、キリストが自分たちの目の前で、十字架処刑で死んだというのは、それ以上の事だったと思います。

しかし皆さん、キリストは十字架の上で死んで終わりではなく、3日目に復活されたのです。今色々な問題があるけど、その問題から目を離して、「全知全能の神様は、今生きておられるのだ!」という事に心を向けると、勇気が湧いてきますねえ。

この復活はとても大事です。もしイエス・キリストが復活しなかったなら、聖書は信頼できないものになるからです。キリストは十字架にかかる前、「わたしはエルサレムに行き、祭司長・長老たちに訴えられ、異邦人に引き渡され、十字架にかけられて、それから3日目によみがえります」と何度も繰り返し言われました。「死んでから3日目によみがえる」というのは、キリストの約束です。もしキリストが復活しなかったら、キリストは約束破りになります。その瞬間に、偽メシアです。

「キリストは、この約束を守り切る事ができない方だった」という事なら、他の約束についても、果たして信用できるか疑わしくなるんじゃないでしょうか？しかし、死んで3日目に死を突き破って復活するという、最も果たすのが難しい約束ですら、きっちり守り抜かれたとするならば、「キリストの全ての約束は信じて間違いない」という事になるのではないのでしょうか？クリスチャンの信仰は、キリストの復活信仰にかかっているのです。

弟子たちはよみがえったキリストを見て、「幻じゃないか？霊じゃないか?」その時キリストは、「何か食

べる物があつたら持って来なさい。」焼き魚を差し上げると、ムシャムシャと食べたと書いてあります。これ、どう思います？ よみがえった!という事を示すために、お魚食べたって。なんとチャーミングな。

何よりも、キリストがよみがえったという事は、この方が「自称救い主」ではなく、本当に罪の贖いを達成した「本物の救い主」だという事を明らかにしたのです。もっと言うならば、「イエスはメシアなんかじゃない」という人間の拒否に対して、「いや、メシアである」という神のどんでん返しです。人間の考えを根底からひっくり返して、「あなた方が拒否したイエスこそは、本物のメシアなのだ」という事を明らかにするために、他の誰も成し得なかった復活をイエスの身の上に成就させたのです。死んでよみがえった方、この方が死に打ち勝ったゆえに、私たちにも、死に立ち向かって行く勇気を与えられます。

以前お話した事がありますが、あるクリスチャンのグループ、男女混合の30人くらいですが、タイにワークキャンプに行きました。タイのジャングルに小さな村があつて、そこに教会堂を建てよう。日本の若者も大工仕事のお手伝いをしようと。ところが、初日の夜に事件が起こりました。泊まっていたのは掘っ立て小屋みたいな宿舎で、女子大生が（日本人ですよ）、あろうことか、サソリに刺されたんです。「痛い!」と思った時には、サソリが彼女の足を刺していて激痛。「痛い! 痛い!」1番近い病院まで200キロ。班長は、まだクリスチャンじゃないこの女子大生のお父さんから「娘の事、くれぐれも頼みますよ!」と。お父さんの顔がパッと出て来る。「どうする?!」どうするも何も、とにかく何かしなあかん。最悪、切断か?と。

それで村のクリスチャンに、すぐに駆け込んで行って相談したら、「大丈夫です。私の家に特効薬があります。」「これです」と言って出したのが『味の素』。「味の素を傷口にかけると治ります。」皆さんの家にもあるでしょ、味の素。「そんな?!」と言うけど、「いや、これで、もう治ります。」バーッとかけて。包帯でくるんで。足パンパンに腫れてるのに。ところが翌朝、何事もなかったように治っていたんです。それは、一緒に行ったキャンパーたちをすごく励ます事になりました。よく見たら、サソリ、あっちにもこっちにもいてる。「キヤー!」でも、万一刺されたとしても味の素がある。「味の素さえ振れば生還できる」という先例があるので、見るのは嫌だけど何とかなる。

たとえばすごく悪いんですが、サソリに刺されて生還したという事以上に、死んで3日目に復活したイエス・キリスト。これは、これから後に死のうとしていながら死に向かっている私たちに対して、勇気を与える前例なのです。誰でもイエス・キリストを信仰によって救い主として受け入れるなら、その人は死んで終わりではない。キリストが再び来て下さる時に、肉体も含めて復活します。その予告編です。死んで下さっただけではなく、よみがえられた方。それがイエス・キリストだと語っています。

### キリストがして下さった事の3つ目

**神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。**

キリストは十字架にかかり、墓に葬られ、3日目に死を突き破り、40日間弟子たちに姿を現した後で、エルサレムの東にあるオリブ山から天に帰って行かれました。これを「昇天」と言います。昇天した後、イエス・キリストは今この瞬間、何をなさっているのか? **私たちのためにとりなして下さるのです。**

滋賀大学の元学長で、もう亡くなられましたが、日高敏隆（ひだか としたか/1930-2009）先生。動物行動学者ですが、にも拘らず「進化論では動物の行動生態を説明する事はできない」という本を書いた事でも有名です。非常に読み易い本。

彼は小学生の時から昆虫学者になろうと思っていたのですが、実際に昆虫学から、もっとフィールドを広げて動物行動学者になって、日本が生んだ世界的な動物行動学者です。

しかし彼は、小学校の時不登校でした。学校に行けない。当時は戦争中。彼は小さくて、スポーツが駄目で、弱かった。渋谷区の広尾小学校。校長先生がものすごくスパルタで軍国主義。体育教師がやたらと訓練が好き。彼は体育をよく休むし、学校も休む。それで、「おまえみたいに体の弱い奴は兵隊さんになれないから、早く死ね!」と言われた。「先生に死ねと言われた」とお父さんに言ったら、「わしもそう思う。もっと体を鍛えないと駄目だ。」

親からも、学校でも「死ね」と言われて、彼は本当に自殺を考えた。「何のために生きているのか?」それで「体調が悪い。しんどい。痛い」とずる休みするようになって、ずっと休んでいる内に行けなくなったんです。

昼から近くの原っぱに行って虫を見るのが唯一の慰めで、虫をずっと見ていたら、色んな事を発見できたそうです。「僕しか知らないんじゃないかな」という昆虫の生態の秘密をいくつか気づいて行く内に、「そうだ! 兵隊さんにならなくても、昆虫学者になったらいいんだ!」お父さんに「僕、昆虫学者になります」と言ったら、「アホか!」と殴られた。

もう完全に追い詰められた時、担任の米丸三熊（よねまる みくま）先生が、アポイントも取らずにいきなり家にやって来ました。ビックリしている両親の前で、「日高、自殺する事はいい事と思うか? 悪い事と思うか?」虚を突かれて、思わず「悪い事だと思えます」と言ってしまうんです。「悪いと思っている事を、なぜしようとしているのか。」

そして両親に向かって、「変な事を言ってすみません。でも、お宅の敏隆君は本気で死のうとしています。お父さん、お願いします。彼を昆虫学者にしてやって下さい。許してやって下さい。」と土下座。お父さんは急に言われたから、「させます、させます!」言ってしまった。

「日高、聞いたか? お父さん、させるって。畳に両手をついて、お父さんにありがとうございますと言いなさい。」「お父さん、ありがとうございます。」もうお父さんは後に引かれへん。そしたら三熊先生が彼にウインクして、「これからの時間は、日高君と二人にさせて下さい。」

二人きりになった時、こう言ったそうです。「やるからには本気でやれ。」「はい、本気でやります。」「でもな、虫ばかり見ているだけでは昆虫学者になれない。虫の本を読まなければならない。そのためには国語が要る。」納得。「カメムシという臭い虫がいる。臭さの成分を調べようと思ったら理科が要る。理科も勉強しなければならない。」納得。「この虫はどの辺りに生息しているのかを考えたら地理が要る。」納得。「この虫はいつ頃から日本に住んでいるのかを考えたら歴史が要る。」納得。「世界的な学者になろうと思うなら論文は英語で書かなければならない。そのためには中学進学だ。だから勉強しなければならない。」納得。

現役で東大に行きました。ウチの子もこの方法でやろうとか思ってる? 何度も壁にぶつかる度に、自分のために頑固な父親に土下座して、にじり寄ってくれた三熊先生の姿がよみがえったそうです。そのイメージがふつつつと鮮明に浮き上がって来ると、「よーし!」というファイトが湧いて来る。そんな先生を人生に持った人は素晴らしいですね。

しかし皆さん、あなたには彼以上の応援団がいます。キリストは十字架にかかり、墓に葬られ、3日目によみがえり、今天であなたのために、天の父なる神様ににじり寄りながら祈って下さっているのです。

